

## 遺伝子ネットワークと神経回路 の解析からアルツハイマー病の 発症機序を読み解く

講師：飯島 浩一 教授

薬学研究科 加齢病態制御学分野/

国立長寿医療研究センター 神経遺伝学研究部

日時：2023年9月27日（水）17:00～

場所：ZOOM配信のみ



本セミナーはZOOMによるオンライン配信のみで実施いたします。

参加は下記URL又はQRコードからログインしてください。

URL：<https://us02web.zoom.us/j/89272550156>



老年性認知症の最大の原因であるアルツハイマー病は、神経細胞が失われて発症に至るため、治療が極めて困難な病気だと考えられてきた。しかし近年、脳画像解析法や髄液・血液バイオマーカーの開発が進み、症状が現れる前に発症リスクを診断することが可能になりつつある。これに伴い、アミロイド抗体医薬をはじめ、脳が不可逆的なダメージを受ける前に介入することで、発症や進行を遅延させる先制治療法の開発が急務の課題になっている。加齢病態制御学分野・神経遺伝学研究部では、アルツハイマー病のプレクリニカル期に進行する神経変性機序を解明し、神経細胞を保護する先制治療法の開発に取り組んでいる。

アルツハイマー病は、大脳皮質に蓄積したアミロイド病理が、慢性的な神経炎症や血管病変を引き起こし、それらが発症の引き金になると考えられている。一方で、アルツハイマー病の初期に見られる神経細胞の脱落は、海馬に加え、ノルアドレナリン神経核の青斑核やアセチルコリン神経核のマイネルト基底核などの皮質下領域から生じることが知られている。これら神経核の脱落は、抑うつや無気力、不安などの周辺症状の表出に関わると考えられ、症状改善薬の重要な標的になっている。本セミナーでは、遺伝子ネットワークと神経回路の解析から、アルツハイマー病の発症前・初期の神経変性機序の解明を目指す研究を紹介する。

世話人：山川和弘（医学研究科・神経発達症遺伝学分野）

TEL: 052-851-5612, E-mail: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp